（中国乙19）
猩紅熱 発生推移
＝ 2022年03月度 ＝

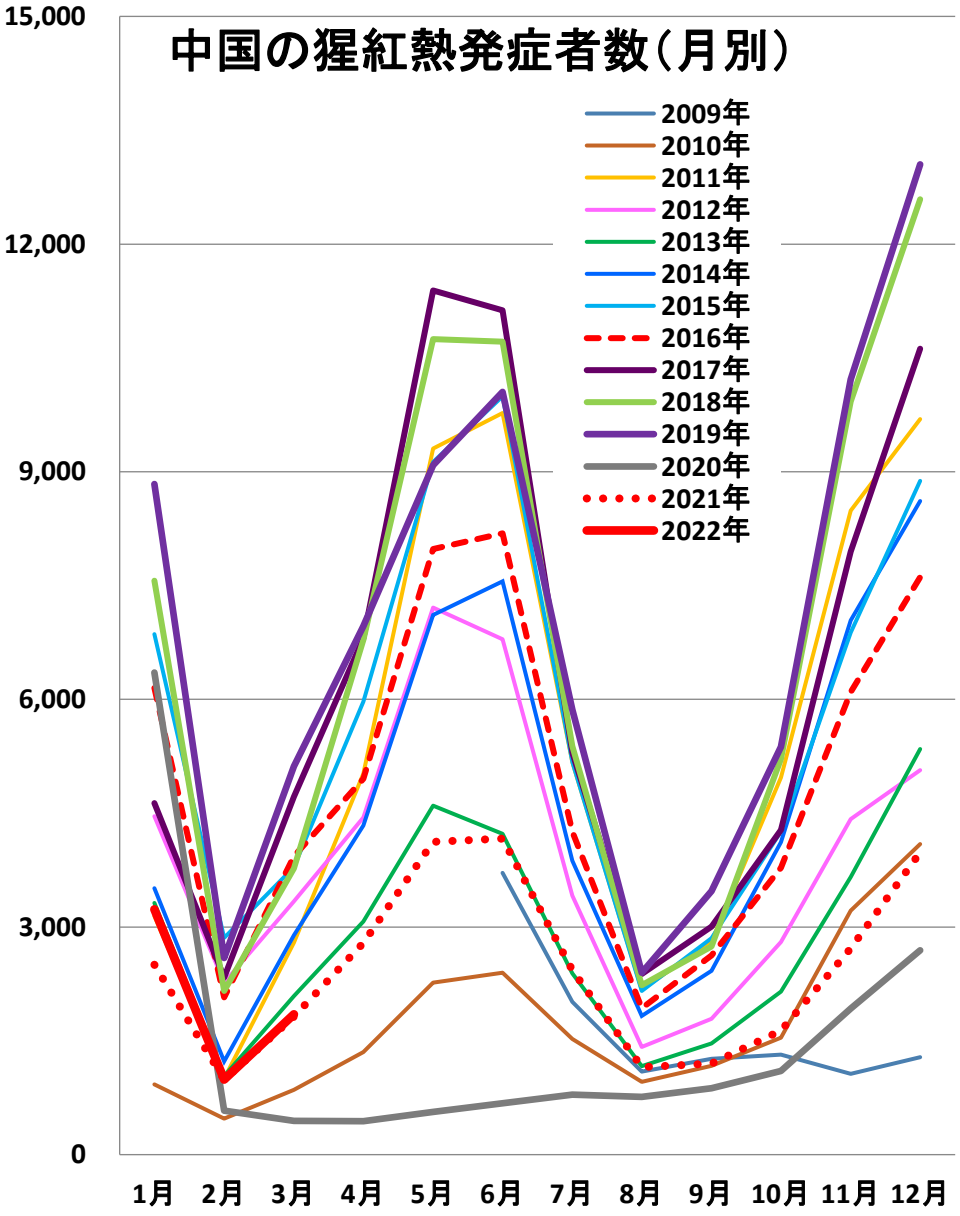
発表：2022年04月22日衛生健康委

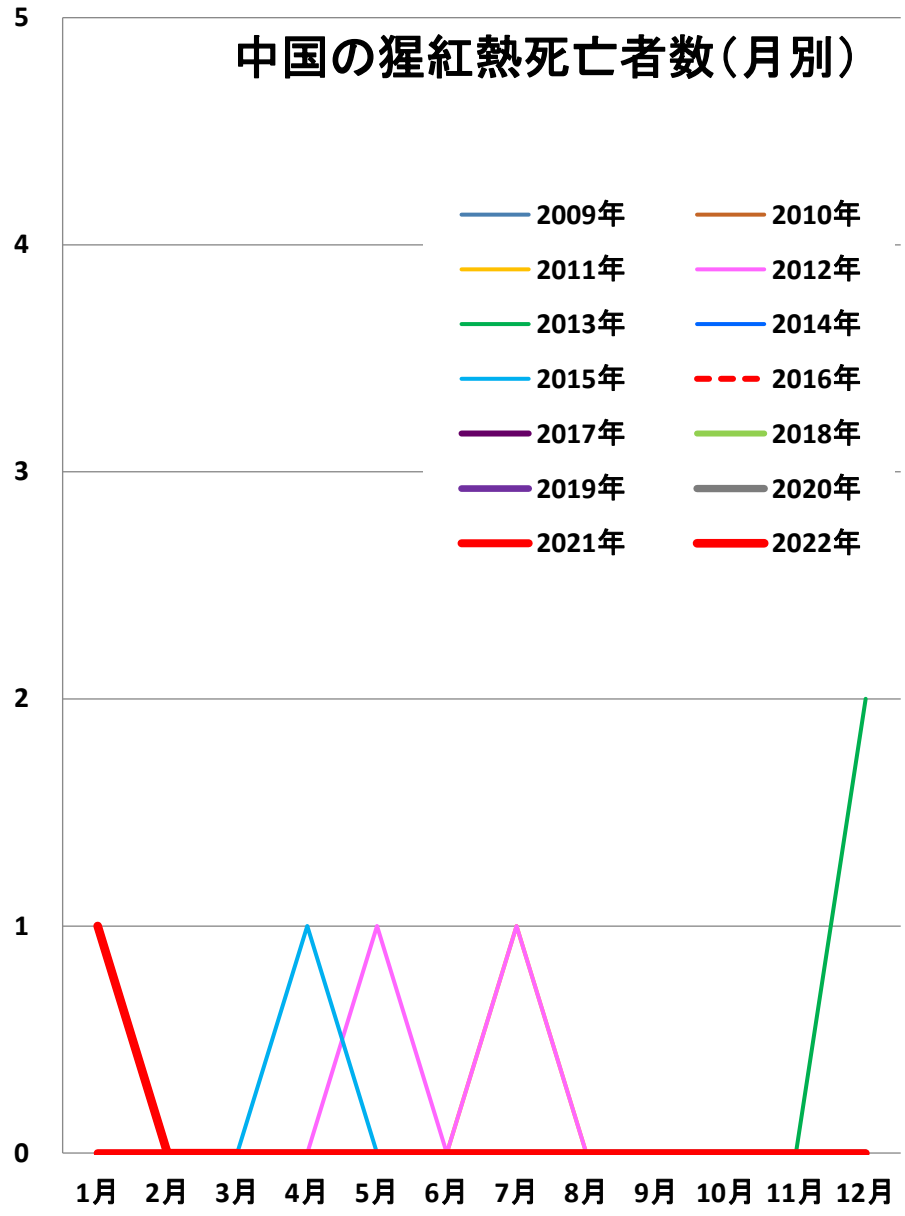
作成：2022年04月25日
日中医療衛生情報研究所

乙19：猩紅熱

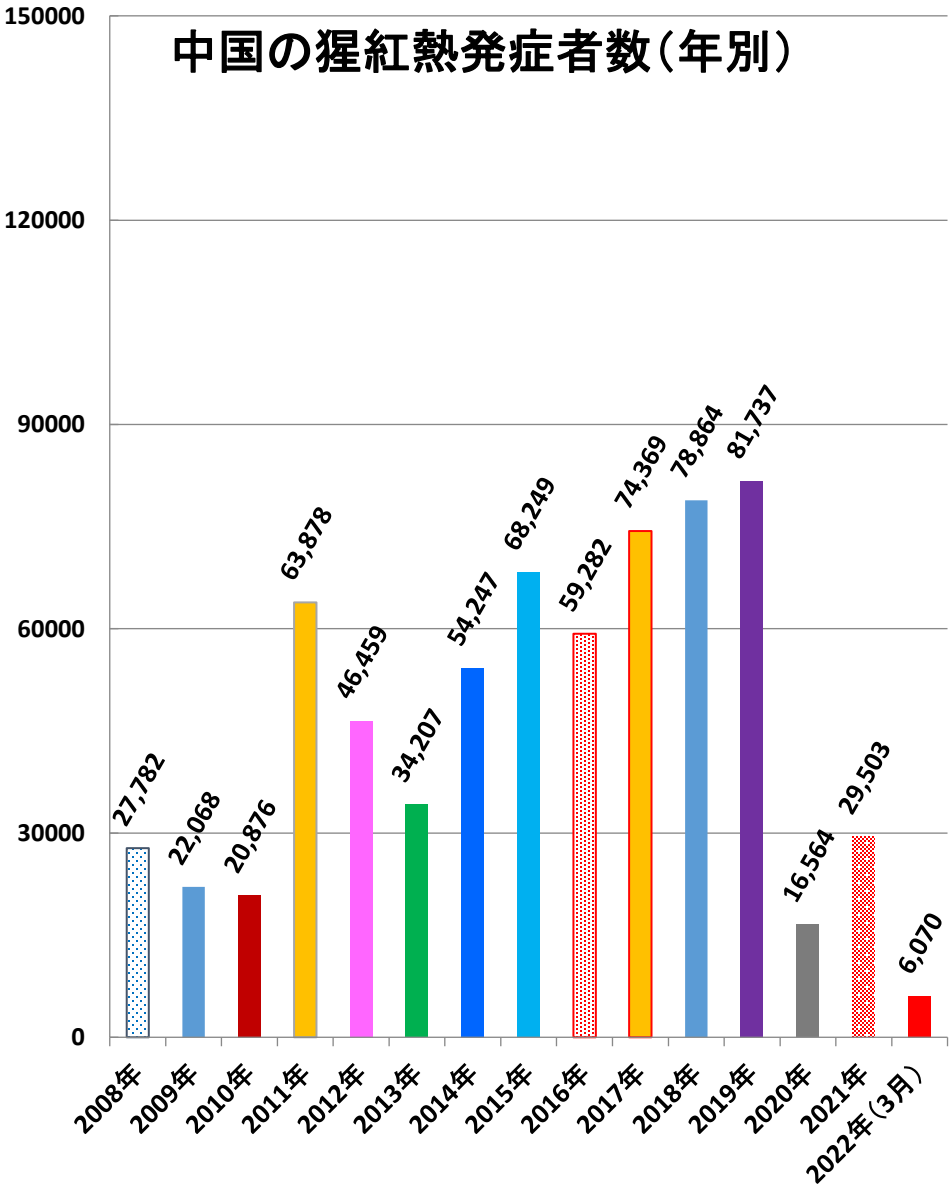
- 日本では、1998年の法改正で、法定伝染病ではなくなった。
- 現在、日本の感染症法ではA群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）として診断・治療を行うことが大半だが、
- 中国・香港・マカオ及び韓国では、法定報告感染症として指定されている。
- 3月～6月、11月～翌年1月の二度のピーク期がある点は、手足口病と似ている。
- 2011年を除けば、毎年増加傾向にあったが、
- 2020年は、COVID-19の影響で激減したと言えよう。
- 死に至ることは稀
- 主に子供に多く見られるのはこれも手足口病に似ている

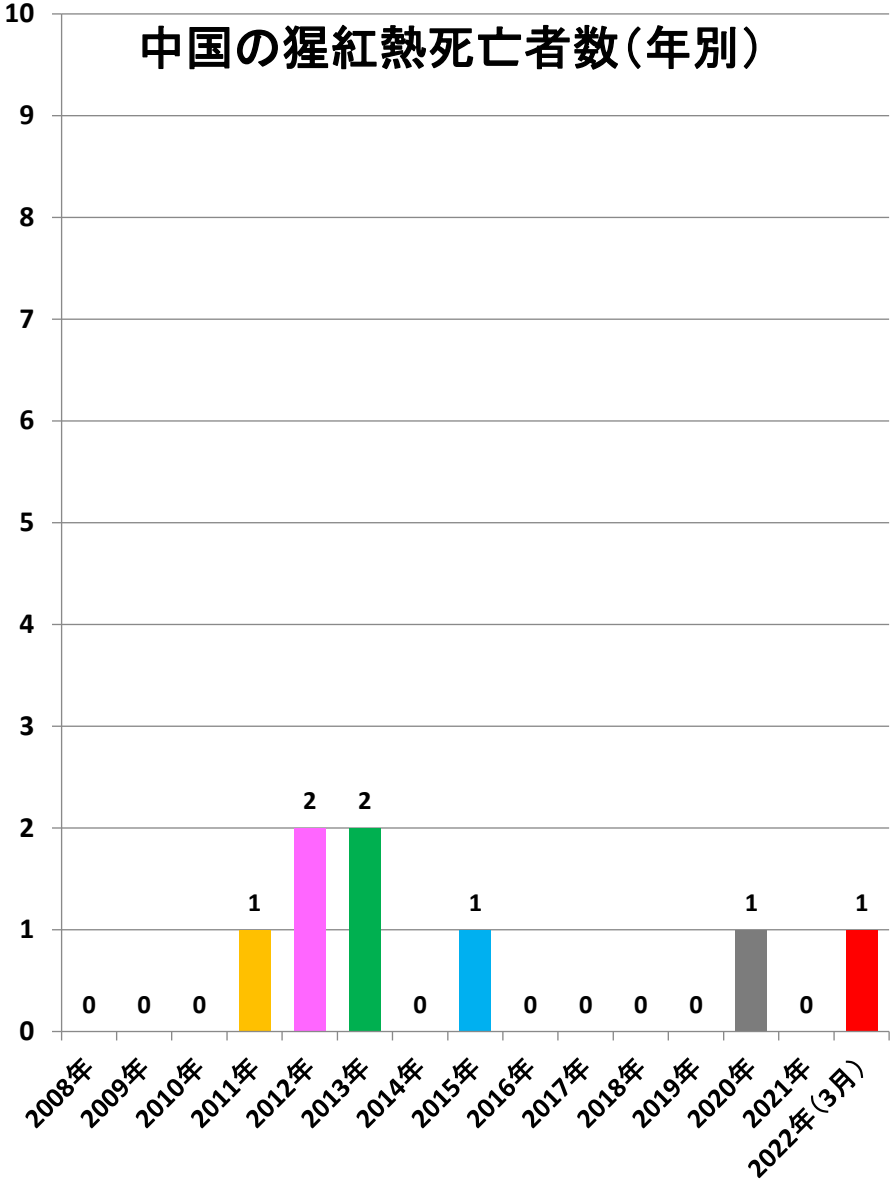
乙19: 猩紅熱


中国の猩紅熱発症者数(月別)
15,000
12,000
9,000
6,000
3,000
0
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年
2021年
2022年


中国の猩紅熱死亡者数(月別)
5
4
3
2
1
0
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年
2021年
2022年

乙19： 猩紅熱


中国の猩紅熱発症者数（年別）
150000
120000
90000
60000
30000
0
27,782
22,068
20,876
63,878
46,459
34,207
54,247
68,249
59,282
74,369
78,864
81,737
16,564
29,503
6,070
2008年
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年
2021年
2022年（3月）


中国の猩紅熱死亡者数（年別）
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
0
0
0
1
2
2
0
1
0
0
0
0
1
0
1
2008年
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年
2021年
2022年（3月）